

## アイヌタイムズ第12号日本語版

### 東海事業所で臨界事故がありました

東海村 オッタ 臨界事故 アナ ルウェ ネ  
Tōkaimura or ta rinkaiziko an a ruwe ne

1999年9月30日に、茨城県東海村の株式会社ジェー・シー・オー(JCO)東海事業所で、JCOの人たちが、ウランが溶けている硝酸溶液を沈殿槽(ウランを沈殿させるところ)に入れたところ、どういわけだか、臨界が起きました。そのようなことがあったので、そこで働いていた3人が放射線という毒に当たってしまいました。

それは、被爆と言われています。

いっしょに病院に入れられ、病院の手当を受けています。

その後も、その場所の回りの放射線は大きく、科学技術庁は、事故対策本部を作って、今後どうしたらよいかと考えました。

政府は、この悪い事態が心配であったので、政府対策本部を作って、小淵総理がその本部長として指令を出しました。

東海村、茨城県では、とても近い(350m)ところなら、逃げた方がよいですよ、遠い(10km)ところなら、家の中に居た方がよいですよ、といいました。

それから、政府は急いで放射線をよく知っている人たちを集めて、漏れた放射線を何とかしてなくすように相談しました。

10月1日、政府は、放射線をよく知っている人たちが言っていることを聞いて、JCOの人たちは、沈殿槽の回りにある冷たい水を取りま

した。

すると、核分裂が起きづらくなり、臨界は止まり、放射線は少なくなりました。

その場所のそばにいる日本原子力研究所や核燃料サイクル開発機構の人たちが、その場所の回りの放射線を調べました。

その人たちは、放射線をよく知っている人たちに調べたことを聞かせました。

放射線をよく知っている人たちが、言っていることを聞いて、政府は、放射線が少なかったので安心しました。

それで、逃げている人は、家に帰ってもいいですよ、家の中にいる人は、外に出てもいいですよ、と言いました。

科学技術庁は、10月3日から、原子力等規制法という決まりによって、他の事業所でも悪いところを調べました。他の事業所は悪いところはなかったため、政府は大丈夫だと言いました。

臨界が起きないと思われたところで臨界が起きました。そのことは驚くべきことです。

ジェー・シー・オーの指導者が、きちんと職員に大切なことを教えなかったため、その従業員が、いい加減なことをしてしまったので、こういうことが起きました。

今後は、こういう恐ろしいことがないようにしなければならぬと思います。

[横山 裕之] 沙流・千歳

編註：この記事を発表した後、被爆した方の一人が亡くなりました。ご冥福をお祈りいたします。